

令和元年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

1 研究開発課題名	<p style="text-align: center;">H S J (Hop Step Jump)カリキュラムによる自立型地域リーダーの育成 ～協働的課題解決能力と自己教育力を兼ね備え、自ら未来を切り拓く人づくり～</p>		
2 研究の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学年の「総合的な学習／探究の時間」で、①課題解決能力、②協働性の力、③自己教育力を育むためのレディネス形成を行い、習得した技術や態度を「課題研究」の取組や進路実現につなげていく。 ・ 外部連携を①インプット型（先端技術講習会、講演会、現場見学会等）、②トレーニング型（インターンシップ、大学生による「課題研究」指導等）、③アウトプット型（継続型農業体験講座「アグリ・スタディ・ツアー」の企画・運営、地域イベント参加等）に分類し、実施する。 ・ 中核的生徒（F S）を海外研修、地域活動等で育成し、F Sの学びを他の生徒にも波及させて、農業教育全体のレベルを高める。 ・ 事業評価を、農業系関連産業への就職者数、農業系大学進学者数、アグリマイスター顕彰制度認定者数の増加や、プロジェクト活動による地域貢献度、各種アンケート等から多面的に行う。 		
3 令和元年度実施規模	<p>HOP・STEP・JUMPの内容を全校生徒を対象に実施した。</p>		
4 研究内容	<p>○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: top;">第1年次</td> <td style="padding: 5px;"> <p>HOP：学びのレディネス</p> <p>本研究の「目指す人物像」に備わった協働的課題解決能力と自己教育力を課題解決能力、協働性の力、自己教育力の3つに分類し、その力を育むために必要なレディネスを1学年の「総合的な学習の時間」で習得させるように研究を進める。</p> <p>【研究事項】</p> <p>ア) 自ら目的・目標を設定して課題解決能力を発揮するための研究（課題解決能力）</p> <p>イ) 多様な他者と協働的な取組を行うための研究（協働性の力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1学年の「総合的な学習の時間」において「学び方ガイドブック」を活用し、スケジュールを管理する力を養う。 ・ 「学び方ガイドブック」に記載されている「夢・目標達成シート」、「日誌」等を記入することでR P D C Aサイクルを意識させ、目標達成に向け常に思考し、忍耐強く行動する力等を育成する。 <p>ウ) 自己教育力を育むための研究（自己教育力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 性格分析のエゴグラムから自分の対人関係の特徴を捉え、他者をサポートする際に自己理解が必要なことを学び、活用できる力を身につけさせる。 <p>STEP：多様な力を育てる多様な学習</p> <p>ア) 全教科で取り組む「主体的・対話的で深い学び」に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年の各教科・科目におけるシラバス、評価規準等を作成する。 ・ アクティブ・ラーニング室を設置し、使用方法を確立する。 <p>イ) 農業の専門性を高めるコース間の連携に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度以降、各コース間同士の学びに深まりが出るように専門性を高める。 <p>ウ) 機能別に体系化した外部機関連携に関する研究</p> </td> </tr> </table>	第1年次	<p>HOP：学びのレディネス</p> <p>本研究の「目指す人物像」に備わった協働的課題解決能力と自己教育力を課題解決能力、協働性の力、自己教育力の3つに分類し、その力を育むために必要なレディネスを1学年の「総合的な学習の時間」で習得させるように研究を進める。</p> <p>【研究事項】</p> <p>ア) 自ら目的・目標を設定して課題解決能力を発揮するための研究（課題解決能力）</p> <p>イ) 多様な他者と協働的な取組を行うための研究（協働性の力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1学年の「総合的な学習の時間」において「学び方ガイドブック」を活用し、スケジュールを管理する力を養う。 ・ 「学び方ガイドブック」に記載されている「夢・目標達成シート」、「日誌」等を記入することでR P D C Aサイクルを意識させ、目標達成に向け常に思考し、忍耐強く行動する力等を育成する。 <p>ウ) 自己教育力を育むための研究（自己教育力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 性格分析のエゴグラムから自分の対人関係の特徴を捉え、他者をサポートする際に自己理解が必要なことを学び、活用できる力を身につけさせる。 <p>STEP：多様な力を育てる多様な学習</p> <p>ア) 全教科で取り組む「主体的・対話的で深い学び」に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年の各教科・科目におけるシラバス、評価規準等を作成する。 ・ アクティブ・ラーニング室を設置し、使用方法を確立する。 <p>イ) 農業の専門性を高めるコース間の連携に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度以降、各コース間同士の学びに深まりが出るように専門性を高める。 <p>ウ) 機能別に体系化した外部機関連携に関する研究</p>
第1年次	<p>HOP：学びのレディネス</p> <p>本研究の「目指す人物像」に備わった協働的課題解決能力と自己教育力を課題解決能力、協働性の力、自己教育力の3つに分類し、その力を育むために必要なレディネスを1学年の「総合的な学習の時間」で習得させるように研究を進める。</p> <p>【研究事項】</p> <p>ア) 自ら目的・目標を設定して課題解決能力を発揮するための研究（課題解決能力）</p> <p>イ) 多様な他者と協働的な取組を行うための研究（協働性の力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1学年の「総合的な学習の時間」において「学び方ガイドブック」を活用し、スケジュールを管理する力を養う。 ・ 「学び方ガイドブック」に記載されている「夢・目標達成シート」、「日誌」等を記入することでR P D C Aサイクルを意識させ、目標達成に向け常に思考し、忍耐強く行動する力等を育成する。 <p>ウ) 自己教育力を育むための研究（自己教育力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 性格分析のエゴグラムから自分の対人関係の特徴を捉え、他者をサポートする際に自己理解が必要なことを学び、活用できる力を身につけさせる。 <p>STEP：多様な力を育てる多様な学習</p> <p>ア) 全教科で取り組む「主体的・対話的で深い学び」に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年の各教科・科目におけるシラバス、評価規準等を作成する。 ・ アクティブ・ラーニング室を設置し、使用方法を確立する。 <p>イ) 農業の専門性を高めるコース間の連携に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度以降、各コース間同士の学びに深まりが出るように専門性を高める。 <p>ウ) 機能別に体系化した外部機関連携に関する研究</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・インプット型、トレーニング型、アウトプット型の連携先の検討及び確保。 ・学校設定科目「加茂学」の導入等を検討する。 <p>エ) 中核的生徒（F S）に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・F Sの募集、シンガポール研修の企画・立案、研修の実施等。 <p>オ) 自己教育力の発揮に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグリマイスター顕彰制度に関する取得ポイント確認のシステムづくり等。 <p>カ) 多様な学習成果の評価手法に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科・科目で「目指す人物像」から評価規準を作成し、各単元別に、観点別評価に用いるルーブリックを作成する。 <p>JUMP：学びの集大成</p> <p>ア) 外部機関と連携した協働的課題解決学習に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の2学年「課題研究」に関する指導方法について研究。 <p>イ) 「課題研究」の取組と関連させたキャリア教育に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の進路サポート（T-T）体制の検討・準備。 <p>広報・普及・技術共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭やホームページ等を活用したSPH事業の広報。
第2年次	<p>HOP：学びのレディネス形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の反省・評価・改善を踏まえた1学年「総合的な学習の時間」の実践。 ・生命情報コース2学年の「総合的な学習の時間」授業実践（1年目）。 <p>STEP：多様な力を育てる多様な学習</p> <p>〈主体的・対話的で深い学び〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学年の各教科・科目におけるシラバス、評価規準等の作成。 ・1学年のシラバス、ルーブリック等の見直し、改善に基づく実践と評価。 <p>〈機能別・外部機関連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部機関連携活動の本格的な開始、コース間連携の試行的取組。 ・現場見学会、最新技術講習会の実施。 <p>〈中核的生徒（F S）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学年のF Sによる校内成果発表会や県外視察の実施、研修成果を踏まえた「課題研究」の取組。 <p>〈自己教育力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の資格取得（A区分、B区分）とアグリマイスターの指導体制の確立。 <p>JUMP：学びの集大成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「課題研究ノート」とポートフォリオの試験的運用（1年目）。 ・担任とコース担当者による進路サポート（T-T）のシステムの開始。 <p>広報・普及・技術共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭やホームページ等を活用したSPH事業の広報。 ・全国産業教育フェア等を活用した、研究の進捗状況の報告・発表。 ・授業互見週間（外部へ案内し視察者の受入）。
第3年次	<p>HOP：学びのレディネス形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの反省・評価・改善を踏まえた「学び方ガイドブック」の完成。 ・生命情報コース3学年の「総合的な探究の時間」授業実践（1年目）。 ・「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」の指導技術など反省・評価・改善。 <p>STEP：多様な力を育てる多様な学習</p> <p>〈主体的・対話的で深い学び〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学年の各教科・科目におけるシラバス、評価規準等の作成 ・1～2学年のシラバス、ルーブリック等の見直し、改善に基づく実践と評価

	<p>〈機能別・外部機関連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部機関連携活動の運用、コース間連携・現場見学会・最新技術講習会・大学からの出前授業の実施。平成30年度入学生のインターンシップの実施。 <p>〈中核的生徒（F S）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに取り組んでいる県外の自治体で研修を行う。 ・研究成果発表会、校内プロジェクト発表会等で研修報告会を実施する。 <p>〈自己教育力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の資格取得（A区分、B区分）とアグリマイスターの指導体制の確立。 <p>〈評価手法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の本格実施に伴い、各教科・科目における観点別の評価・評定について、生徒へのフィードバックを確実にを行う仕組みを構築する。 <p>JUMP：学びの集大成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「課題研究ノート」とポートフォリオの運用。 ・担任とコース担当者による進路サポート（T-T）の3学年進路指導。 <p>広報・普及・技術共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の全国産業教育フェア新潟大会における成果発表。 ・地域・在校生の保護者に本校のSPH指定校の取組を広く広報する。 ・授業互見週間と実践力向上研修を組み合わせ、効率よく教育技術の共有を図る。
--	---

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

なし

○令和元年度の教育課程の内容（令和元年度教育課程表を含めること）

別紙添付

○具体的な研究事項・活動内容

HOP：学びのレディネス形成

- ・毎週1時間、「総合的な探究の時間」で「学び方ガイドブック」を活用し、自らの夢・目標に向け、考えを整理してきた。エゴグラムやクレペリン検査を実施し、自らを客観的に捉えさせるとともに、グループワークによってコミュニケーション能力や課題解決能力の育成を行った。
- ・生命情報コース3学年「総合的な学習の時間」で、知識のアウトプットから知識の深化と定着をはかり、コミュニケーション能力の向上や自ら学びに向かう力を養うことを目標として、様々な「主体的・対話的で深い学び」の手法を取り入れた授業を行った。

STEP：多様な力を育てる多様な学習

〈主体的・対話的で深い学び〉

- ・教員の主体的・対話的で深い学びとなる授業改善を推進するため、互見授業週間を実施した。
- ・年度当初全職員にアクティブ・ラーニング20（AL20）の取組を周知した。
- ・「課題研究」は、各コースや学科単位で発表会を実施し、お互いの研究について、理解を深めた。また、コース間連携に向け、各コースの「課題研究テーマ一覧」の作成や、校内プロジェクト発表会での全校発表により、研究内容の共有を行った。

〈機能別・外部機関連携〉

- ・農業科の各コースが、関連する企業や大学等で現場見学会や先端技術講習会を実施し、それぞれの分野における最先端の知識・技術の習得に努めた。〈インプット型連携〉
- ・夏期休業中を中心に、インターンシップ8名、デュアルシステム7名、合計15名の生徒が農家や関連企業における就業体験に参加した。〈トレーニング型連携〉
- ・青海祭（文化祭）、中学生体験入学等で農業科9コースの生徒が、主体的に自分たちの学びの成果を発表・PRした。また、「アグリ・スタディ・ツアー」を2回開催し、地域の子供や保護者に農業の魅力を伝えた。〈アウトプット型連携〉

〈中核的生徒（F S）〉

- ・北海道 上川郡 下川町において、持続可能な産業をもとにした地域活性化の取組について研修を行い、今年度以降の全校でのSDGsの取組について提言した。

JUMP：学びの集大成

〈1 学年〉

- ・3学期中の「総合実習」の授業において、コース担当者による面談を実施した。進路希望及びインターンシップやデュアルシステムの希望について詳しく聞き取りを行った。
- ・面談をとおり、将来の進路希望に関連した「課題研究」のテーマ設定ができるように指導した。

〈2 学年〉

- ・3学期中、コース担当者による面談を実施した。進路希望の確認及び進路決定への意識付けを行った。

〈3 学年〉

- ・進路指導部が主体となり、担任と学年団・コース担当者による進路サポートの割振りを行い、効率のよい進路指導体制を構築した。

広報・普及・技術共有

- ・青海祭（文化祭）で学校説明会を実施し、中学生や保護者に対しSPH事業の説明を行った。
- ・HSJ通信（SPH通信）を8回（通算58回）発行し、学校HPに掲載した。
- ・学校だより「みのり」を毎月発行し、学校行事など本校の教育活動を紹介した。
- ・「新潟県スーパーハイスクールネットワーク連携委員会」で、本校のSPH事業や「課題研究」の取組や評価手法について報告した。
- ・5月11日（土）公開授業日として、保護者へ授業を公開した。
- ・10月26日（土）～27日（日）第29回全国産業教育フェア新潟大会で、SPH事業の成果を発表した。
- ・11月11日（月）～15日（金）授業互見週間を実施した。
- ・12月2日（月）職員研修会を本校で実施し、「主体的・対話的で深い学び」に関する評価について研修を行った。
- ・12月20日（金）SPH事業成果発表会を開催し、全校生徒・職員その他、保護者、同窓会、県内外から関係者30名が参加した。

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

- ・第29回全国産業教育フェア新潟大会で、巨大苔玉の展示（草花コース）や課題研究の作品展示（生命情報コース）、箸づくり体験（緑地工学コース）など、課題研究の成果を紹介した。
- ・本校ホームページにSPHサイトを新設し、取組状況と研究成果などを掲載した。
- ・新潟県農業教育研究会誌第54号において、本校のSPH事業の取組や研究成果等を掲載した。
- ・研究成果発表会をはじめ、様々な機会に県内外から広く視察を受け入れ、SPH事業の紹介や研究成果を紹介した。

○実施による効果とその評価

HOP：学びのレディネス形成

〈1 学年「総合的な探究の時間」〉

- ・「学び方ガイドブック」は「総合的な探究の時間」に活用できるように再編集した。入学後の早い段階から活用した結果、習慣的に使用することができ利用率が向上した。
- ・「学び方ガイドブック」と記録用ファイルと一緒に活用し、ポートフォリオとしての位置づけができたことから、生徒のメタ認知を高めることができた。
- ・コミュニケーションカトレーニングやオープンウィンドウ64の思考ツールの活用方法についてガイダンスを行った結果、アンケート調査項目「興味関心・理解」では概ね80%を超える高評価を得た。

〈生命情報コース3学年「総合的な学習の時間」〉

- ・1年次からの積み重ねにより、生徒の反応はとても速く対応ができていた。農業に関連性のある現代社会の様々な問題や課題にふれることで、今までの学習活動に関心が持てたことは成果であった。
- ・各グループとも調べ学習や学習会で得られた知識を参考にしてグループ内で話し合いが行われ、結論とその理由を導き出して、報告することができた。これらの活動をとおり、思考力や判断力、コミュニケーション能力や表現力を育成することができたと考える。また、報告会では、想定通り意見が分かれ、多様な見方や考え方を体感することができ、相互理解や客観的な評価をすることができた。
- ・アンケート調査（4段階）を行ったところ、「新たな知識が習得できた」（3.89）、「学ぶ意欲が向上した」（3.83）では高い数値を示したが、「役割分担ができた」（3.44）、「伝える力が向上した」（3.50）は、課題の残る数値であった。

STEP：多様な力を育てる多様な学習

全教科で取り組む「主体的・対話的で深い学び」に関する研究

- ・アクティブ・ラーニング20（AL20）の取組を今年度から変更し、年間授業計画の20%を「主体的・対話的で深い学び」の手法を取り入れることとした。各単元やまとまりで、思考して知識を深める授業内容を取り入れ、実習・実験では、思考させて表現する機会・時間を設けるなどの工夫をした。
- ・生徒の授業評価アンケート調査の結果、調査項目「学校の授業や実習は分かりやすく、充実しているか」では評価3以上が、1年84.5%、2年85.2%、3年84.8%と全学年で80%以上と高く、職員のSPH事業への意識の高まりや、授業改善の成果が現れていると考えられる。

機能別に体系化した外部機関連携に関する研究

- ・農業科9コースにおいて延べ13か所で現場見学会を実施した。また、技術講習会・講演会は延べ16回開催した。
- ・インターンシップ、デュアルシステムでは、2・3学年あわせて15名が実際の現場を体験し、仕事の難しさや仕事への達成感を感じることができた。
- ・2・3年生に対し実施したアンケート調査の「外部指導者からの指導により、最先端の専門知識・技術を学ぶことができた」の項目では、評価3以上が78.9%と定量目標を達成することができた。

SPH評価アンケート（全学年） 4段階評価

No.	質問項目	1 選択者	2 選択者	3 選択者	4 選択者	3・4 選択者合計
1	授業や実習等に積極的に取り組むことができ、学ぶ意欲が高まった	0.8%	11.7%	59.5%	28.0%	87.5%
2	課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まった	0.8%	17.2%	60.6%	21.4%	82.0%
3	学びを通じて、新たな知識・技術を習得することができ、自分のスキルアップにつながった	1.5%	12.1%	58.3%	28.0%	86.4%
4	自分の将来の職業に対する意識が高まった	2.3%	15.6%	49.0%	33.1%	82.1%
5	学校の授業や実習はわかりやすく、充実している	0.9%	14.2%	56.4%	28.4%	84.8%
6	加茂農林高校のSPHの取組活動を理解することができた	5.1%	14.4%	53.2%	27.3%	80.5%

- ・アンケート調査項目「学びを通じて、新たな知識・技術を習得することができ、自分のスキルアップにつながった」では、評価3以上が1年85.6%、2年88.6%、3年84.8%と全学年85%以上と高く、外部機関への見学・研修が学ぶ意欲を高め、日々の学習活動の充実につながっていると考えられる。

FS（中核的生徒）に関する研究

- ・全校でのSDGsの取組についての具体的な活動として、新潟市立鳥屋野小学校のペーパーレス化の取組について研修を行い、職員会議におけるペーパーレス化の実現について具体的な提案を行い一部の会議での実践に結びつけた。
- ・フロンティア・サポーターズの生徒は、大勢の前での発表やさまざまな世代の人と関わる経験をしたことで、自分に自信を持てるようになり、行動も積極的になった。また、環境問題や外国のことに興味を持つようになった。

JUMP：学びの集大成

- ・1年生は、早めにコース担当による面談を実施したため、進路に対する意識を喚起することができた。また、進路実現と「課題研究」の関連性を意識づけることができた。

- ・コース担当と担任がチームとなり、情報を共有し、生徒の進路実現を目指す意識を高めた。
- ・進路が決定した3学年の生徒に、希望調査の変遷や3年間のキャリア教育の参加状況、課題研究と進路の関係について面談調査を行った。インターンシップやデュアルシステムが直接就職に結びついた生徒や、本校入学時から国立大学農学部を目指し、「課題研究」のテーマを大学でも続けて研究したいと思い、目標通りの進路を決めた生徒もいた。
- ・大学からの出前授業や夏季休業中の大学での公開講座の参加やインターンシップ・デュアルシステムの活動をきっかけに早い段階から進路を決め、自ら積極的に行動し進路実現に向けて取り組んだ成果が現れた。
- ・進学率は、3 p t 増加した。先端技術講習会や現場見学会等の開催により、学習することの意義や目的を理解し、より専門的な知識や技術を身に付けることの必要性を実感できたのだと思われる。また、県内就職の割合も95%と高く、将来の自立型地域リーダーの候補として育てている。

広報・普及・技術共有

- ・文化祭や各種イベントでの農産物販売や発表等をとおして、生徒が学校のPRを行った。また、SPH成果発表会の課題研究ポスターセッション発表やステージ発表で各コースの成果を発表することで、地域や中学生に対し広報活動を行うことができた。
- ・「HSJ通信」を通算58号発行することで、SPH事業の取組を情報発信できた。
- ・「主体的・対話的で深い学びを支える学習評価のあり方」についての研修会を実施した。このような研修を実施することで、STEPの研究テーマである、全教科で取り組む「主体的・対話的で深い学び」に関する研究や多様な学習成果の評価手法に関する研究の成果の向上につながった。

○実施上の問題点と今後の課題

HOP：学びのレディネス形成

- ・学びのレディネスが習得できていると生徒が実感できるように、各教科・科目でねらいの明確化と振り返りを丁寧に行い、生徒のモチベーションを維持・向上させる。
- ・「総合的な探究の時間」とLHRとの連動性を高め、生徒の現状に合わせた効果的な時期で展開ができるよう授業計画を立案する。
- ・「総合的な探究の時間」として授業展開を変更し、課題研究につなぐ探究学習のモデルづくりや3年間使用できるキャリアパスポートとして、「学び方ガイドブック」の再編集を行う。

STEP：多様な力を育てる多様な学習

- ・AL20は、取組数を増やすことには一定の成果はあったが、より生徒の成長に合わせた深い学びを目指すために数値目標を廃止して、各教科・科目の特性に合わせた単元やまとまりでの効果的な方法や実施時期の検討を行う。
- ・公開授業や互見授業の継続と職員へのフィードバックや情報共有の検討を行う。
- ・本校の生徒が、特に足りないもの（学ぶ楽しさを知る、学ぶことの必要性を実感する等）を全教職員で共通理解するために指導目標を設定し、授業改善を促していく。
- ・FSの活動を全校で継承するための実施計画と組織化を図る。

JUMP：学びの集大成

- ・「課題研究ノート」の充実とポートフォリオの連携を継続していく。
- ・キャリア教育の成果検証として独自の進路希望調査の実施を検討する。
- ・「課題研究」への取り組み方（課題設定→考察→検証→結果の考察→表現）が進路実現には重要であることを生徒に理解させるため、導入段階における統一した指導案を作成する。

広報・普及・技術共有

- ・各コースや教科などの取組を、容易に紹介できるよう様式を変更して、HPの更新ペースを維持・継続する。
- ・外部機関との連携活動などを継続できるように連携先情報を共有して、コース合同開催など効果的な企画・計画を立案する。また、職員研修も継続して実施する。